

文になるフィオーレ喜連川人vol.37 佐々木加代子

ペットと泊まれる宿の手作り犬用おやつ販売、犬マッサージなどドッグセラピストとして活躍中の佐々木加代子さん。この道へ導いてくれたのは愛犬マノン。そして揺るぎないもの、伝えていくべきものと思わせてくれたのは保護犬から家族に迎え入れたななのだった。

「マノン(マノンの愛称)は気性が荒く、しつけに悩んで2歳の時に病院でカウンセリングを受けたのですが、そこで処方された薬の副作用で衰弱してしまっただけです。そこから仕事も一旦休んでマノンと真剣に向き合おうと決めました」

その時知ったのが犬のためのマッサージ。

「ひどい噛み癖は訴えたいことがあるから...それをちゃんと受け止めてあげる為のコミュニケーションのひとつがマッサージでした。『手作りごはん』もそう。市販が悪い訳でなく、口に入るものが



キミ達ときた道にしあわせの足跡を

text by 大河原千晶



1丁目 佐々木加代子 KAYOKO SASAKI

どこから来て、どんな過程で作られているかを知らないことが怖い: 愛犬の健康を考えたなら手作りするのが自然でした」

手作りご飯に変えてからは日に日に元気を取り戻していったマノン。ほとんど食べなかった仔がお手製ご飯はおねだりする。その姿に感謝した。それは2年前にやってきたななのも一緒だった。来た日のウンチの中から靴下が出てきた。食べる喜びを知らず生きることに必死だったななの今や好みである。自分にも役に立てることがある!。そう思わせてくれた。

「昨年宇都宮で出店した時、いつ亡くなってもおかしくない犬を連れ来たお客様が来ました。食欲がなくて困っ

ていたその仔におやつをあげたら食べてくれました。その後、犬は亡くなったけれど、死ぬ直前までこのおやつだけは食べてくれたと、那須での出店にわざわざ来てくれたんです」

最期を迎えた飼い主と愛犬の絆に寄り添えた。そして新たに老犬介護士の資格も取得した。家族同様大切にされるペットが増え、寿命が延びたことで新たな課題の現れを見据えている。一方、ペットを飼う人とそうでない人の価値観のズレは広がっている。東日本大震災時、犬マッサージボランティアとして現地入りした時に見たのは飼い主と離れ不安に怯える犬たちの姿だった。「避難所の狭いスペースに間仕切り一枚で過ごせば、苦情が出るのは当然。大人しい仔もいれば、不安で吠え続ける仔もいる。だからこそマナーを向上させるべきなんです」

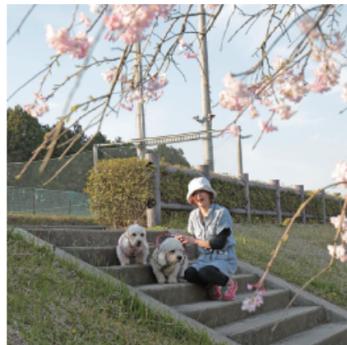
犬を飼う人のマナーが上げれば周りの見る目が変わる。「フィオーレ内にも放置ウンチが目立ちます。片づけるの

は当然。それができていないから不満が出る。逆ならちよつとくらい吠えても『うるさい』から『今日も元気だね』に見方が変わるはず」

フィオーレに来て22年。犬を通してご近所から声をかけてもらったり、先代犬の危篤時にはたくさんの励ましをもらうなど、地域の中でのかわいがってもらった。

「ここは飼い主とワンちゃんにとつとでも環境が良い所。ご近所の理解も深いなと感じます。だからこそより良い関係を保つ為、飼い主は愛情と責任を持って行動しなきゃいけない」

犬を飼う人もそうでない人も、みんなが気持ちよく暮らせる社会がここフィオーレから広がれば。



“我が子たち” ダンディ・ディンモント・テリアのななのちゃんとマノン君(ともに9歳)

見所その1
大正ロマン

新しい道の駅のコンセプトは大正ロマン。建物はもちろん、装飾やポスターなどあちこちでレトロなデザインが見られる。

見所その2
お食事処

竹末や桔梗などさくら市が誇る人気店が出店。竹末は道の駅限定のラーメンで勝負!

見所その3
農産物

さくら市を中心に約150の農家から仕入れた農産物が並ぶ。売り場は広々、惣菜コーナーも充実。

油揚げで包んだ煮卵がオススメ!

見所その4
お土産ほが

お土産コーナーでは道の駅オリジナル商品も販売している。新館ではあのニッカウイスキーや温泉ハンも出店。

2017.4.20thu
わくわく湯の郷きつれがわ
道の駅きつれがわ
リニューアルOPEN

栃木県さくら市喜連川4145-10 / TEL.028-686-8180